

2月15日 本日の為替見直し

## ポイント

一度あることは2度ある。またしてもユンケル議長は、ギリシャ第2次支援で必要事項の合意が不十分と判断、15日のユーロ圏財務相会合を中止し、20日のユーロ圏財務相会合の定例会合までギリシャに猶予を与えたのか、決定を先に延ばした。そして、本日15日にはそれに向けた電話による準備会談を行うとのことである。

ギリシャ政府は3月20日の145億ユーロ国債償還日前に、債権者と合意しEU主導の第2次救済を確保する必要があると言われて久しい。そのタイムリミットが、2月6日、いや、2月7日と言われ、今は2月17日といわれていたが、いずれにしても20日のユーロ圏財務相会合の決定を待たなければならない。タイムリミットを告知しながら、ギリシャに約束の実行を急かしているだけに思えてならない。

昨日発表された、ギリシャ第4四半期GDPは前年同期比-7.0%(前期-5.0%)、ポルトガル第4四半期GDPは前期比-1.3%(前期-0.6%)で、共に支援条件の財政引き締めの影響でリセッションに陥っている。このような状況で仮に、第2次支援策で合意が得られたとしても、厳しい財政規律をクリアできるであろうか？

欧州委員会は、スペインのラホイ政権が3月の地方選挙を前に財政緊縮措置の導入を延期したことだけで、制裁を科す可能性があると言われている。

先日FT紙は、ギリシャはユーロ離脱させずに、ユーロ圏内に留め、秩序あるデフォルトをさせ、ユーロ圏で大量の資金を投入して再生を図ることを目指すのが最良の方法ではとも言っていた。世界的な株高と債券の上昇に、昨年末は今年初めに危惧された欧州金融不安は大幅に解消に向かっているが、通貨ユーロを見ると、大量のショートカバーが終わっても、この水準に留まることができるのか、疑心暗鬼にならざるを得ない。とは言うものの、白黒が決着付くまでは1.3050~1.3300のレンジに収まる可能性は高いと思われる。

昨日は、久々に日本初の材料で相場が動いた。日銀が長期国債の買入枠を55兆→65兆円へ10兆円増額、インフレ目標1%の設定で、円安の流れとなっているが、これをフォローに、クロスで円売りの流れが強まる可能性も指摘されており、EURでもないUSDでもない、独自の相場展開になる可能性も否定できない。

本日は、BOEの四半期インフレ報告があり、キングBOE総裁の会見があり、GBPを取引している人には注意が必要で、FOMC議事録も変動要因になりかねず、ユーロ圏財務相会合の電話会議では、意外性に注意が必要となっている。経済指標ではドイツ、ユーロ圏の台四半期GDP速報値が注目される。

## 本日の重要な経済指標 発言・その他

## ◎発言・その他

14:00 日銀金融経済月報  
18:30 ポルトガル短期債入札  
19:30 ポルトガル短期債入札  
19:30 BOE四半期インフレ報告  
19:30 キングBOE銀総裁会見  
23:15 フィッシャー・ダラス連銀総裁講演  
00:00 ガイトナー米財務長官(下院歳入委員会で証言)  
00:30 週間石油在庫

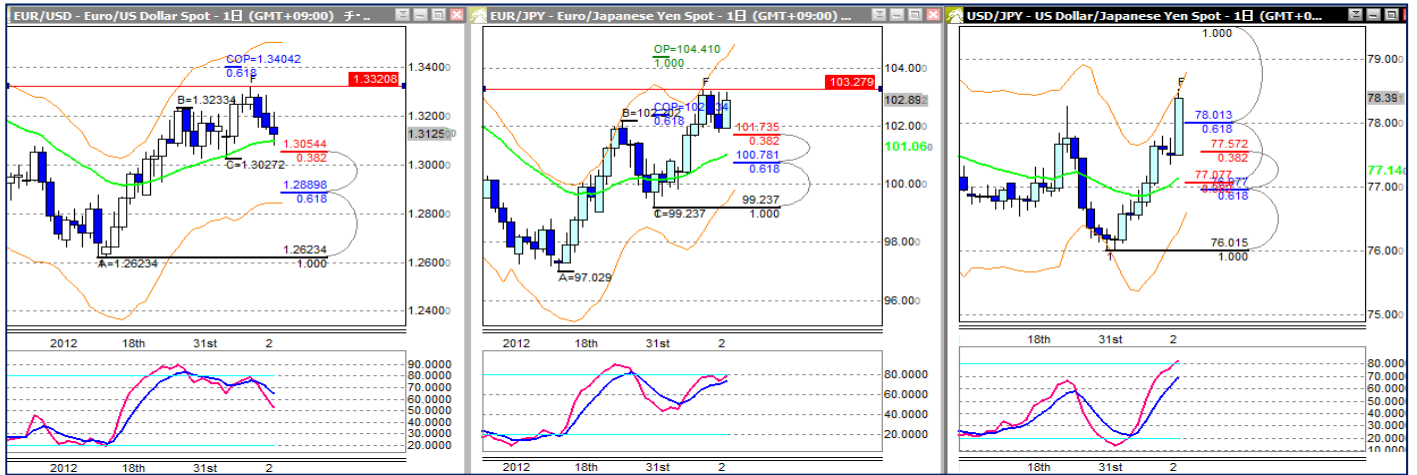
## ◎発言・その他

04:00 FOMC議事録(1月24-25日分)  
ユーロ圏財務相電話会議(財務相会合は延期)  
欧州議会本会議(仏ストラスブール、16日まで)  
IMF・EUのトロイカ調査団、ポルトガルへの調査開始  
◎注目の経済指標  
16:00 独第4四半期GDP・速報値  
19:00 ユーロ圏第4四半期GDP・速報値  
22:30 米NY連銀製造業景気指数

## 本日の主な経済指標と発表予定

6:45	NZD 第4四半期 小売売上高=前期比予想1.2% 第3四半期2.2%
8:30	AUD 2月 ウェストパック消費者信頼感=前月比予想 前回2.4%・97.1、
15:00	JPY 1月 工作機械受注・確報=前年比予想 12月-6.6%
15:30	FFR 第4四半期 GDP・速報値=前期比予想-0.2% 第3四半期0.3%、前年比予想1.1% 第3四半期1.5%
16:00	GER 第4四半期 GDP・速報値=前期比予想-0.3% 第3四半期0.5%、前年比予想1.8% 第3四半期2.6%
18:30	GBP 12月 失業率=予想5.0% 前回5.0%、ILO失業率予想8.4% 11月8.4%、失業保険申請件数=◎予想3000人 前回1200人
19:00	EUR 第4四半期 GDP・速報値=◎前期比予想-0.4% 第3四半期0.2%、前年比予想0.7% 第3四半期1.4%
19:00	EUR 12月 貿易収支=予想35億ユーロ 11月69億ユーロ、季調済=予想45億ユーロ 11月61億ユーロ、
19:30	GBP BOE四半期インフレ報告書
22:30	USD 消費者物価指数の改定値発表
22:30	USD 2月 NY連銀製造業景気指数=予想14.1 1月13.48
23:00	USD 12月 ネットTICフロー合計=予想450億ドル 11月486億ドル、ネット長期TICフロー予想 前回598億ユー御
23:15	USD 1月 鉱工業生産=予想0.7% 12月0.4%、設備稼働率=予想78.6% 12月78.1%
4:00	USD FOMC議事録公表(1月24日-25日)

EURUSD・EURJPY・USDJPY のマーケット・レベル



**EURUSD(日足)** = 25 日指数移動平均線は 1.3100、この線を下限に下げ止まっている。DOPup=1.3499、DOPdn=1.2842。スロー・ストキャスティックは%K=55.79、%D=64.64、売りを継続し、ベースはニュートラルゾーンに近い。上値のポイントは 1.3321、1.3404、下値のポイントは 1.3054、1.3027。予想レンジは 1.3050 ~ 1.3300。

**EURJPY(日足)** = 25 日指数移行平均線は 101.95、この線を下限に上昇トレンドが続いている。DOPup=104.40、DOPdn=99.39。スロー・ストキャスティックは%K=78.62、%D=73.42、買いを継続しているが売りへ変化の兆しもあり、ベースは買われ過ぎゾーンに近い。上値のポイントは 103.30、104.41、下値のポイントは 101.74、100.78。予想レンジは 101.70~103.30。

**USDJPY(日足)** = 25 日指数移動平均線は 77.14、この線を下限に上昇トレンドが続いている。DOPup=78.49、DOPdn=76.29。スロー・ストキャスティックは%K=82.54、%D=8.83 で、買いを継続し、ベース買われ過ぎゾーンに近い。上値のポイントは 78.49、79.00、下値のポイントは 78.01、77.57。予想レンジは 78.00~79.00。

本日のCFD見通し Spot.WTIとSpot.Goldのマーケット・レベル

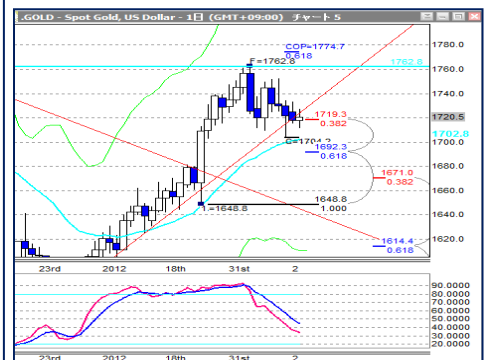
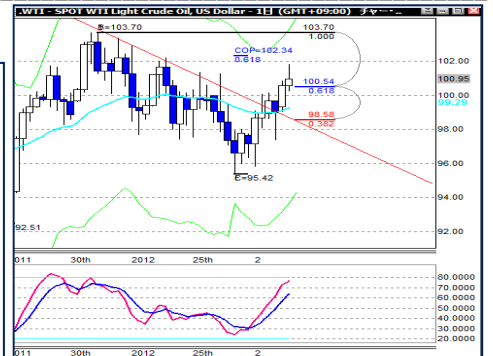
ポイント

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

本日は最近特に、変動リスクの高い米週間在庫統計の発表が控えており上値を抑えているが、テクニカルでは緩やかな上昇トレンドに入っている。S&P が可能性は低いものの、イランが「武力紛争の可能性はないが、増しているとの印象を市場に与える」とあり、何らかの行動に出るリスクを指摘している。引き続きイラン情勢は買いの材料となり、テクニカルでもややブルな展開になりやすいが、先の高値 103.70 を超えてこないと、大きなレンジ相場を抜け出すことは難しそうです。

◎Spot.Gold

利食いの売りが続き、買い需要の低迷に、安全資産としての買いの動きも見られず緩やかに値を下げている。引き続き 20 日 EMA を維持し、急落には至っていないが、ストキャスティクスは売りを継続し、売り圧力が続く中で暫くは狭いレンジに収まる可能性が出ている。



**Spot.WTI(Light Crude Oil)(.WTI 日足)** = 25 日指数移動平均線は 99.29、この線を上回り上昇トレンドが続いている。DOPup=103.88、DOPdn=93.66。スロー・ストキャスティックは%K=74.05、%D=63.72 で、買いを継続し、ベースは買われ過ぎゾーンに近い。上値のポイントは 102.34、103.70、下値のポイントは 98.58、95.42。レンジ予想は 98.50 から 102.30。

**Spot.Gold(.GOLD 日足)** = 25 日指数移行平均線は、1702.08、この線を下限に上昇トレンドが続いている。DOPup=1817.94、DOPdn=1610.86。スロー・ストキャスティックは%K=34.03、%D=44.96 で、売りを継続し、ベースはニュートラルゾーンに近い。上値のポイントは 1762.8、1774.7、下値のポイントは 1704.2、1692.3。レンジ予想は 1700.00~1750.00。

## 前日の海外市場の動き

早朝、ムーディーズはユーロ圏6カ国の格付け引き下げと、英国を含む3カ国のアウトルックをネガティブに変更、リスクオフの流れとなったが、影響は非常に限定的で、その後、格付けを引き下げられたスペイン・イタリアの国債入札は、利回りは前回は大幅に下回割り、その影響はなかった。日銀は政策金利の据え置きと、予想外に「資産買入基金を10兆円拡大し65兆円へ」、白川日銀総裁は「インフレ目標で1%を目指す方針」を発表、円売りの流れへ変化し、介入終了点として話題になっていた78.20をも超え大幅な上昇となった。欧州では予想を上回る独ZEW景況感調査と金利低下や、弱い米小売売上高にもEUR買いは見られず、逆にロンドンフィキシングでEURUSDは値を崩し、ユーロ圏財務相会合の延期にさらに下落、リスクオフの流れが続いた。

- ◎ムーディーズ、ユーロ圏6カ国を格下げ、EU9カ国のアウトルックをネガティブに変更→ リスクオフの流れが始まる
- ◎日銀金融政策決定会合で、政策金利の据え置きと資産買入基金を10兆円拡大→ 円売りが強まる
- ◎温家宝中国首相、ユーロ圏債務関連の支援で関与を強める用意がある→ ユーロ買いの材料となる
- ◎英消費者物価指数は、2011年11月以来の低水準で→ 先の資産買入枠の拡大の正当性が確認された
- ◎独ZEW景況感調査は、予想を大幅に上回る→ EUR買いの流れが強まる
- ◎イタリア・スペイン債入札は前回から利回りは低下→ ムーディーズの格付け引き下げにも、利回りは低下し、EUR買いの流れとなる
- ◎米小売売上高は、予想を大幅に下回る 一時ドル売りへ動いている
- ◎ユンケル・ユーログループ議長は、15日のユーロ圏財務相会合は延期し電話会議に変更へ→ ギリシャ指導者から誓約書の提出なし、EUR売りが強まる。次は、2月20日の定例ユーロ圏財務相会合

◎USDJPY アジア市場は、朝方は77.55~60の極めて狭いレンジから、ムーディーズが英国・ユーロ圏を格下げし、77.35まで値を下げたが、本邦勢の買いに下げ止まり、77.57まで値を戻し、77.55を中心とした狭いレンジで取引が続いた。日銀金融政策決定会合で資産買入基金を10兆円拡大、サプライズに77.95まで急伸し、77.90を底固めし78.00を試す動きが続いた。欧州市場では、78.00台の実需の売りに上値を抑えられながらも、クロスでの円売りに一時78.20近くまで上昇し、実需筋の大口売りに77.95近くまで値を下げながらも、再び78.20近くまで上昇した。米国市場に入っても、暫く78.00~00のレンジで取引が続いたが、オプションカットで78.20を超えストップの買いが強まり、ドル高の流れに78.50を試す動きが続いた。

◎EURUSD アジア市場は、朝方の1.3191を高値に海外勢の売りに1.3160台まで下落、ムーディーズが英国・ユーロ圏の格下げに、1.3145まで続落、フランスが格下げを回避されたことで1.3175まで値を戻し、大枠1.3150~70のレンジで取引から、東京オプションカット後には東欧勢の売りに1.3130割れまで値を下げた。欧州市場は、中東勢の買いに下げ止まり、温家宝中国首相が「ユーロ圏債務関連の支援で関与を強める用意がある」と発言、1.3170台を回復、注目のイタリア・スペイン国債の入札も利回りは低下、予想を上回る独ZEW景況感調査に一時1.3210台まで上昇したが続かず、1.3180割れまで値を下げた。米国市場に入り、1.3140近くまで下落、弱い米小売売上高に1.3180近くまで値を戻したが、ロンドンフィキシングでは1.3130割れまで下落、ユーロ圏財務相会合が延期され、電話会議へ変更されたことで、1.3100割れまで売りが加速した。

◎AUDUSD アジア市場は、朝方の1.0737を高値に、ムーディーズが豪格付け見通しをネガティブに変更の可能性との報道に、1.0707まで値を下げ、ムーディーズが英国・ユーロ圏の格下げに1.0700割れまで下落、EURUSDの反発に一時1.0723まで値を戻したが、アジア勢の売りに1.0666まで続落となった。AUDJPYの買いに下げ止まり、大枠1.0670~95のレンジで取引が続いた。欧州市場では、EURUSDの上昇と、独ZEW景況感調査が強く、イタリア・スペイン債の入札も利回りは低下、1.0720台を回復し一時1.0730台まで上昇したが、利食いの売りに1.0700割れまで下落した。米国市場は、弱い米小売売上高に一時1.0716まで値を戻したが、ロンドンフィキシングに向け1.0670割れまで下落、一時1.0700近くまで値を戻したが、ユーロ圏財務相会合が延期され、電話会議へ変更との報道に、1.0640割れまで続落となった。

## 金・原油価格

## ◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

アジア市場は、朝方の100.75を高値に、前日の高値を更新できず、ムーディーズのEU諸国の格下げを材料にしたリスクオフの流れに100.43まで値を下げ、大枠100.45~70のレンジから、一時100.34まで下落、米原油在庫の増加観測に上値も重く、大枠100.45~60のレンジで取引が続いた。欧州市場は、100.40近くを安値に、独ZEW景況感調査が強く、イタリア・スペイン債の入札も利回りは低下、リスクアセットは堅調でドル安の流れに、101.60台まで上昇、101.00~101.60のレンジで売り買いの攻防が続いた。米国市場に入って、一時101.80近くまで上昇したが、大枠101.00~60の売り買いが交錯、ユーロ圏財務相会合の延期報道にリスクオフの流れが強まり、一時100.30割れまで下落、大枠100.60~101.10のレンジで売り買いが交錯した。

## ◎Spot.Gold

アジア市場では、1721.9で取引が始まり、開始直後から売りの流れが強く、ムーディーズのEU諸国の格下げを材料にしたリスクオフの流れに1717.5まで続落、一時1722台を回復したが、米株先物は弱く1715割れまで下落、大枠1714.50~1718のレンジで取引が続いた。欧州市場に入ると、1719.2→1712.5→1722.0→1716.2→1721.0→171.7と激しく売り買いが交錯した。米国市場に入っても変動率は高く、1712.6→1727.4まで急騰、大枠1718~1726のレンジから→1712.3まで下落、大枠1713~1717のレンジで取引が続いている。

## 前日の主な発言・出来事

ムーディーズ(ユーロ圏と英国の格付けを引き下げた)計6カ国、イタリア、ポルトガル、スロバキア、スロベニア、マルタは1段階引き下げ、スペインは2段階引き下げた。計9カ国、含む、フランス、オーストリア、英国をネガティブに変更
◎イタリア格付けを「A2」から「A3」に引き下げ、見通しは「ネガティブ」 ◎スペイン格付けを「A1」から「A3」に引き下げ、見通しは「ネガティブ」 ◎ポルトガル格付けを「BA2」から「BA3」に引き下げ、見通しは「ネガティブ」 ◎マルタ 格付けを「A2」から「A3」に引き下げ、見通しは「ネガティブ」 ◎スロバキア格付けを「A1」から「A2」に引き下げ、見通しは「ネガティブ」◎スロベニア格付けを「A1」から「A2」に引き下げ、見通しは「ネガティブ」
◎フランス・オーストリア格付け見通しを「ネガティブ」に変更 ◎イギリス格付け見通しを「ネガティブ」に変更
◎ドイツ、デンマーク、フィンランド、ルクセンブルク、オランダ、欧州金融安定ファシリティー (EFSF)の格付けは「AAA」に据え置かれた

欧州関連
ファンロンバイ EU 大統領 = ◎中国は欧州諸国の国債と EFSF 債の投資に具体的な関心を示した
温家宝中国首相 = ◎ユーロ圏債務関連の支援で関与を強める用意がある ◎危機をめぐり欧州との協議を強化する
ポルトガル第4四半期 GDP = ◎前期比-1.3% (前期-0.6%)、前年同期比-2.7%、5 四半期連続のマイナス成長 → 支援条件の財政引き締めの影響でリセッションに陥っている
ムーディーズ = ◎スペインは財政目標の達成できるか懐疑的 ◎銀行の追加の公的支援が必要となる可能性も
バロワン仏財務省 = ◎欧州は債務危機に対し正しい方向に進んでいる ◎仏経済は鈍化しつつある
欧州委員会 = ◎EU 加盟国の内、12カ国はマクロ経済の不均衡で徹底調査を行う必要がある、ベルギー、ブルガリア、キプロス、デンマーク、フィンランド、フランス、イタリア、ハンガリー、スロベニア、スペイン、スウェーデン、英国
欧州委員会 = ◎新たな経済ガバナンスに関するルールに基づき、イタリア経済についてさらなる検証を実施する
バロワン仏財務相 = ◎ムーディーズのアウトルックがネガティブに変更したことで、「AAA」格付けを維持したとの声明を発表 ◎福祉の改革や雇用、債務削減など、成長と競争力強化の行動を続けていく決議
複数の関係筋(ロイター) = ◎スペインのラホイ政権が3月の地方選挙を前に財政緊縮措置の導入を延期したことで、5月までに制裁を課す可能性がある
レーン欧州委員会委員 = ◎EU 加盟27カ国の財務相に対しスペインに対する制裁措置を導入するよう提言するかとの質問に対し、そうした可能性は非常に高いと発言

ギリシャ関連
フリーデン・ルクセンブルク財務相 = ◎ギリシャが支援計画の条件に従わないなら、ユーロ圏にいないべきではない
ウルピライネン・フィンランド財務相 = ◎ギリシャ第2次支援に参加する見返りに担保を求めていたが、今後数日中に調印する可能性 ◎フィンランドは「AAA」格付け国で、ギリシャに担保を要求、代わりに ESM に事前に出資することに合意していた
ギリシャ第4四半期 GDP = ◎前年同期比-7.0% (前期-5.0%)
ショイブレ独財務相 = ◎ギリシャのデフォルトの可能性に対して、万策が尽きた場合では、2年前と比べて準備ができています
レーン欧州委員会委員 = ◎スペインは赤字削減の決意を明確にしている ◎今年の予算案を装入に作成することを望む ◎ギリシャ救済プログラムは近く決定される ◎民間部門関与 (PSI)も提示することができるだろう
デヤヘル・オランダ財務相 = ◎ギリシャ第2次支援で1300億ユーロ以上の拠出に反対
パパデモス・ギリシャ首相 = ◎ギリシャは支援承認のための事前行動を実行すべき
欧州関係者 = ◎ギリシャ文書作成の作業が間に合わず難航しており、15日のユーロ圏財務相会合は延期され、電話会議を開催する計画
ユンケル・ユーログループ議長 = ◎ギリシャはまだ政治指導者の誓約書を提出していない ◎15日には電話会議を開催するが、20日のユーロ財務相会合の準備を協議する
モンティ・イタリア首相 = ◎15日には財務相会合の延期は、ユンケル議長が判断した ◎会合が成功するためのコンセンサスが得られないのが理由で、定例の財務相会合が予定されており、そのために選択した
政府当局者 (CNBC・ロイター) = ◎サマラス・ギリシャ民主主義党首は、約束の署名を提出する見通し

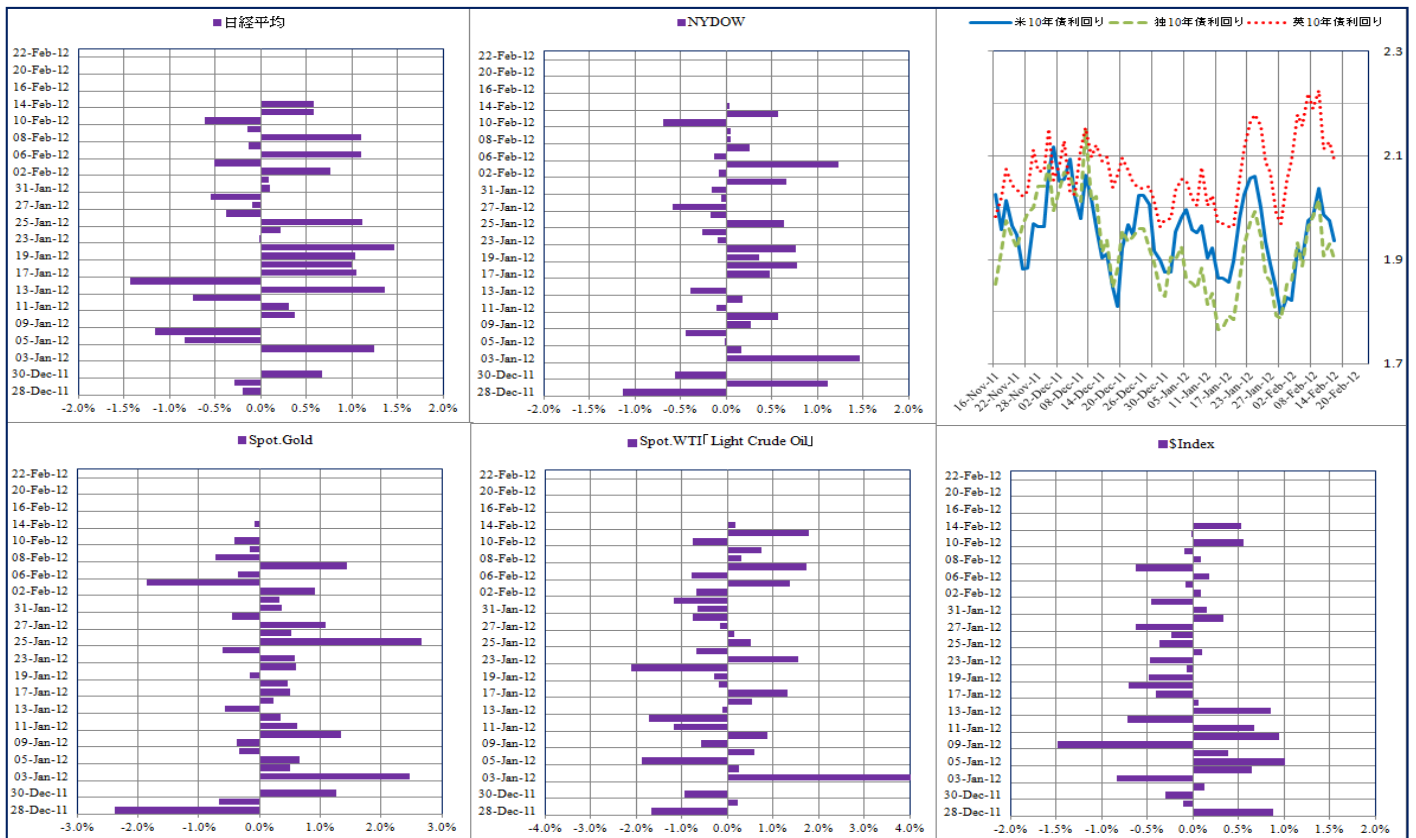
AUD	デベル豪中銀総裁候補 = ◎中銀は国内景気循環の影響力を維持している ◎豪中銀は政策金利を据え置いたが、資金調達コストの上昇で国内の4大銀行は住宅ローン金利を引き上げた
GBP	オズボーン英財務相 = ◎ムーディーズのアウトルックがネガティブに変更したことで、財政再建プログラムだけが英国が直ちに格下げされる事態を回避する唯一の手段
GBP	キング BOE 総裁 = ◎金融政策委員は2012年末までにインフレ率は目標に達成するとみている ◎インフレ押し上げの一時的要因が減少しつつある ◎先の金融政策委員会でインフレ目標値の2%を大幅に下回る下振れリスクがあると判断し、量的緩和拡大

	に踏み切った
JPY	<b>日銀金融政策決定会合</b> ＝◎政策金利お据え置きを全会一致で決定、長期国債の買入枠を55兆→65兆円へ10兆円増額した◎10兆円の増額は全て中起き国債を対象とし、リスク資産の買入は20兆円から30兆円に拡大、固定金利方式の共通担保オペは35兆円に据え置いた
JPY	<b>白川日銀総裁</b> ＝◎消費者物価指数の前年比上昇率で、2%以下の領域で、目標は1%を目指す方針はFRBのインフレ目標に近い
NZD	<b>ジョイス NZ 金融相</b> ＝◎NZドル高によって、NZ 経済は厳しい状況にある
USD	<b>ウリアムズ SF 連銀総裁</b> ＝◎FRB は完全雇用と物価安定の二つの目標を達成しておらず、経済成長の押し上げる努力を続けるべき ◎インフレ率予想、2012年～13年は1.5%、失業率は今後数年間、7%をかなり上回ると予想 ◎QE3にはさらにデータを収集する必要がある ◎2008年当時と比べFRBはショックに対応する手段は少ない
USD	<b>ガイトナー米財務長官(上院財政委員会の証言)</b> ＝◎歳出を過度に削減したり、削減時期が早すぎる場合は、短期的に景気にダメージを与え、長期的な成長に必要な投資を阻害し、影響を受けやすい国民が財政赤字削減の犠牲になる恐れがある ◎今月末で期限切れとなる給与減税と緊急失業手当の延長を議会に要請
USD	<b>ブロッカー・フィラデルフィア連銀総裁</b> ＝◎インフレはまもなく上昇へ ◎景気支援で異例な阻止を講じているにもかかわらず、金融当局はさらに行動すべきとの声が多い ◎一段の措置に動けば、かじ取りが一層困難になり、インフレが進み非常に危険なリスクにさらされる

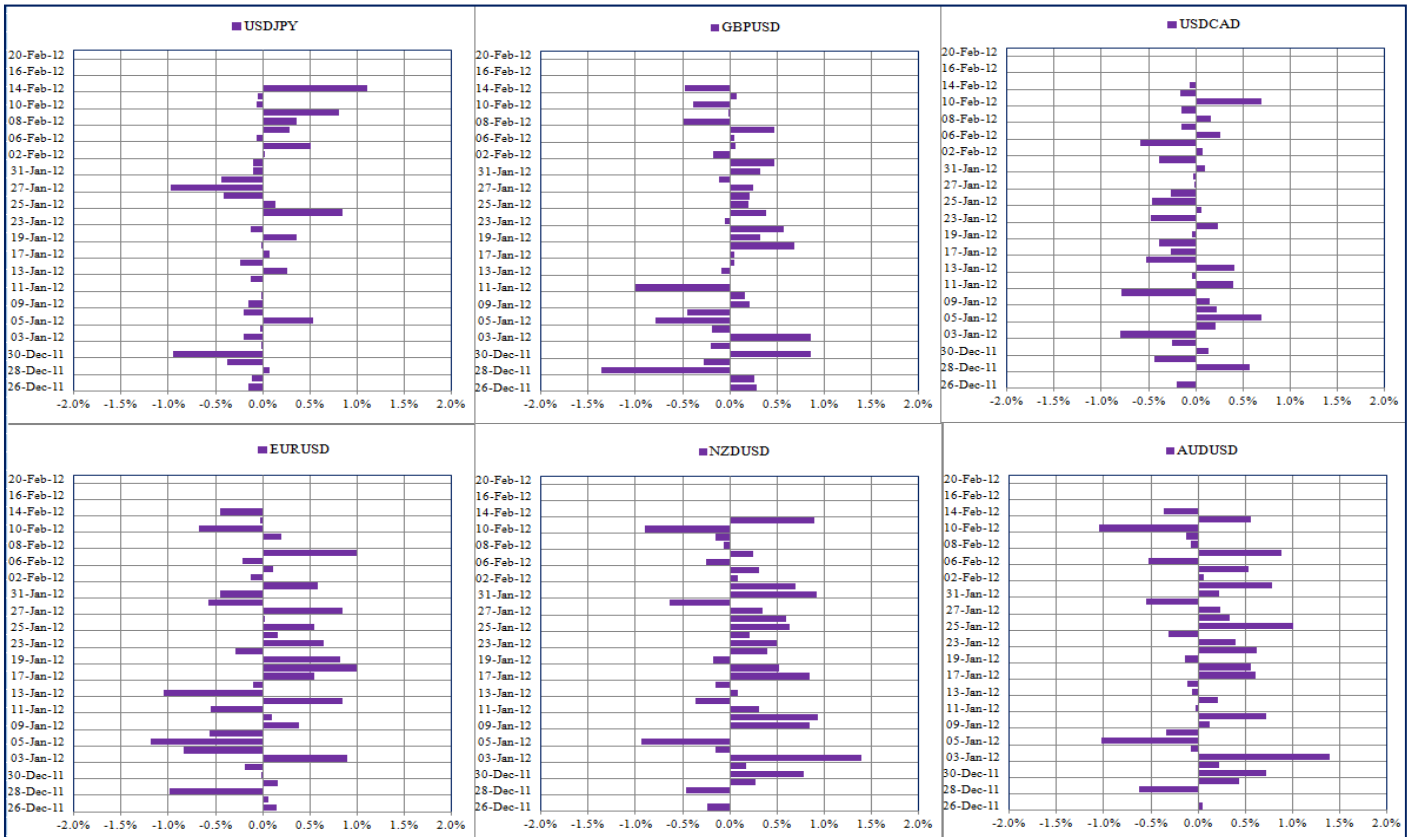
## 前日の経済指標と結果

6:45	NZD 1月 食品価格＝前月比0.0%(予想 12月0.2%)
9:01	GBP 1月 RICS 住宅価格＝-16%(予想-18% 12月-16.0%)
9:30	AUD 1月 NAB 企業景況感指数＝2(予想 12月1)、気企業信頼感＝4(予想 12月3)
13:30	JPY 12月 鉱工業生産・確報＝前月比3.8%(予想 速報4.0%)、前年比-4.3%(予想 速報-4.1%)
13:30	JPY 12月 設備稼働率・確報＝前月比3.1%(予想 速報-2.9%)
18:30	GBP 12月 DCLG 英国住宅価格＝前年比0.1% (予想 12月-0.3%)
18:30	GBP 1月 消費者物価指数(HICP)＝前月比-0.5%(予想-0.5% 12月0.4%)、前年比3.6%(予想3.6% 12月4.2%)、コア前月比-0.8%(12月0.5%)、コア前年比2.6%(予想2.6% 12月3.0%)
18:30	GBP 1月 小売物価指数(RPI)＝前月比-0.6%(予想-0.4% 12月0.4%)、前年比3.9%(予想4.1% 12月4.8%)、実勢インフレ率(RPIX)＝前月比-0.6%(12月0.4%)、前年比4.0%(予想4.2% 12月5.0%)
19:00	EUR 12月 鉱工業生産＝前月比-2.0%(予想-1.4% 11月0.0←-0.1%)、前年比-1.1%(予想-1.2% 11月0.1←-0.3%)
19:00	GER 2月 ZEW 景況感調査: 現況指数＝40.3(予想31.0 1月28.4)、期待指数＝5.4(予想 1月-32.5)、
22:30	USD 1月 輸入物価指数＝前月比0.3%(予想0.2% 12月-0.1%)、前年比7.1%(予想7.1% 12月8.5%)
22:30	USD 1月 小売売上高＝前月比0.4%(予想0.7% 前回0.0←-0.1%)、除く自動車前月比0.7%(予想0.5% 前回-0.5←-0.2%)
0:00	USD 12月 企業在庫＝前月比0.4%(予想0.4% 11月0.3%)
19:00	イタリア債入札＝目標60億ユーロ、発行60億ユーロ、2014年債＝発行40億ユーロ、平均利回り3.41%(1月13日4.83%)、応札倍率1.40倍(1月1.22倍)
19:00	ギリシャ債入札＝91日物、13億ユーロ発行、平均利回り4.61%、応札倍率2.7倍
19:00	スペイン債入札＝目標55億ユーロ、発行54.5億ユーロ、12カ月物＝平均利回り1.899%(1月17日2.049%、2010年10月以来の低水準)、応札倍率2.27倍、18カ月物＝平均利回り2.308%(1月2.399%)

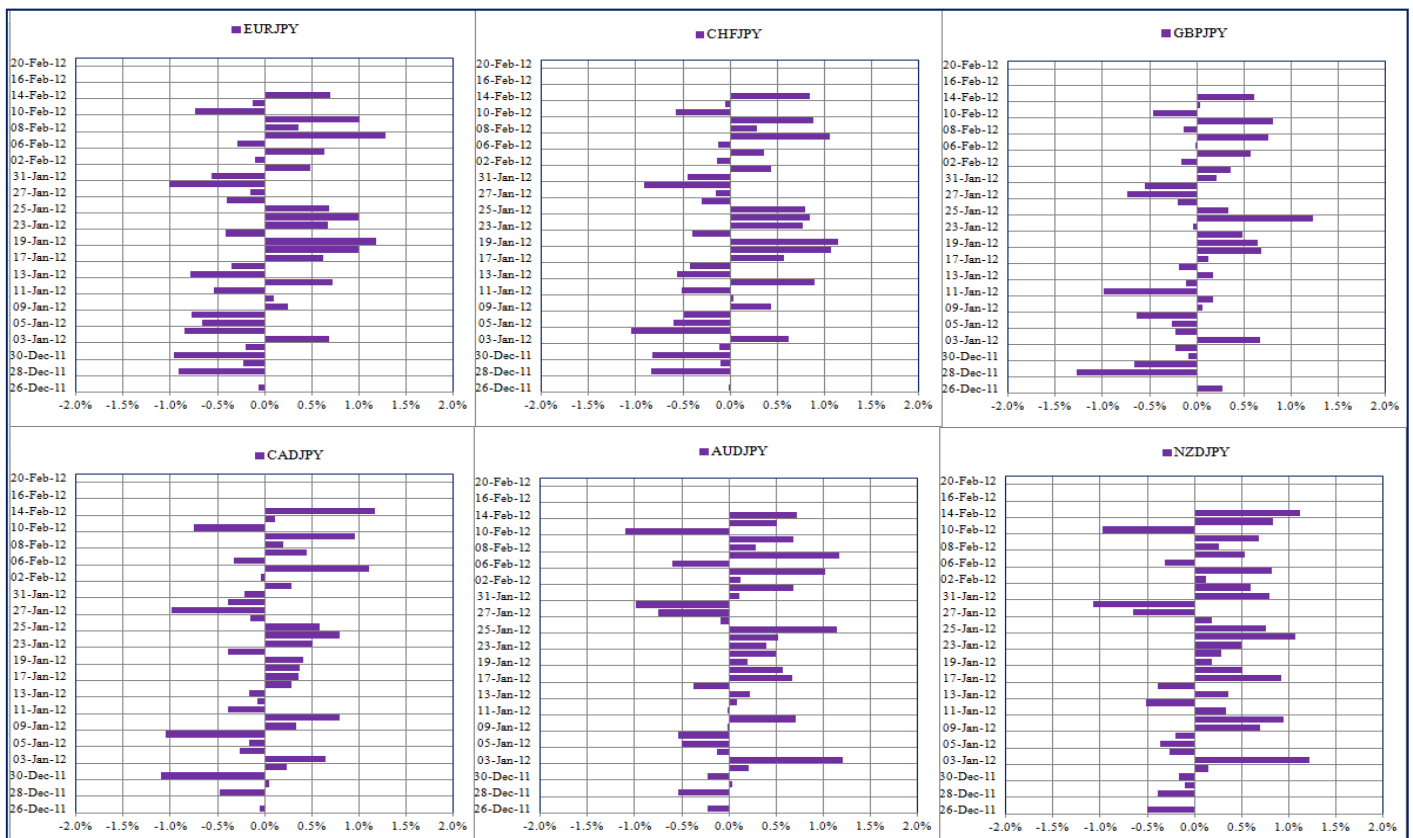
日経平均株価・NYダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Index の(Daily 変動率)、10年債利回りのDaily 推移と比較



主要通貨の Daily 変動率 (%)



## 円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、  
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引(FX)及びCFDには、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。[www.gftforex.co.jp](http://www.gftforex.co.jp)

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011